



鴉の声

この時期の気温の乱高下は例年どおりで、一日の気温差が10度以上もあると体がなかなか日常についていきません。それでも季節は確実に春を迎え、桜前線の話も出始めています。この地方も例年どおりか、やや早いという話もありますので、三月末頃には、八鶴湖の桜も見ごろを迎えるかも知れません。

三月から四月にかけての時期は、多くの人にとって、悲喜こもごもの時なのではないかと思えます。長年勤めた会社を定年退職し、第二の人生を踏み出す人達、新社会人となる人の多くは、希望と不安や緊張で胸がいつぱいな方もいると思います。それは、新一年生になる子ども達も同じで、真新しいランドセルに交通安全の黄色いカバーを被せた、ピカピカの一年生を見かける様になります。上級生に囲まれランドセルを重そ

うに背負った子ども達が集団で登校する姿を見かけると、とても気持ちが和む時で、この子達を見ると、大人の犯罪に巻き込まれない様に、輪禍に巻き込まれない様にと祈る気持ちになります。

まもなく東日本大震災から六年目を迎えます。震災の時に生まれた子が、小学校一年生になるのででしょうか、被災地の子どもが一年生になると、自社のランドセルの寄贈をしている会社があります。この会社は十数年前、障がいを持った子ども達から、ランドセルを自分の子どもが背負えるように作ってもらえないだろうかという、一通の手紙から、障がい児用のランドセルを作り始めたということになります。この要望に、全職種が一丸となって工夫を重ね、普通のランドセルと同じ価格で提供したとのことです。今でも、障がいに合ったランドセルをつくり、採算は未だに合わない様ですが、会社によると、ランドセル

はただの入れ物ではない、子ども達の夢が詰まった「希望の入れ物」。特に、障がいをもつ子どもにとっては、皆が背負っているランドセルを自分も同じように背負って学校に行くことが最大の憧れであり、親にとって、障がいをもって生まれた子が小学校入学まで成長したという事実が、万感の思いとともにせまってくると思います。昨今、民間企業でもどの様な形で社会貢献をしているかということ問われる時代です。本会としても、既存の仕事を更に充実させるとともに、新規事業についても、地域の人たちに支えて頂きながら、新年度に向けて頑張つて参りますので、皆様方のご支援とお力添えを重ねてお願い申し上げます。

(総合施設長 齊藤 操)

ときがね な ひととき

※法人内の事業所の日々の様子をお知らせします。

鴉嶺の家（高齢者・障害者）

寒気も少しずつ緩み始めましたが、皆さんいかがお過ごしでしょうか。

さて、2月のイベントといえばバレンタインデーですよ！街はバレンタインセールで賑わっていました。鴉嶺の家でも大盛り上がりでした。

女性の利用者Tさんは、男性の利用者さん方に可愛く包装されたチョコレートを渡されていました。大切にバッグにしまっ方や、もらった瞬間パクパクと美味しそうに召し上がる方と、

皆さん大喜びの様でした。

また、Yさんは、毎年お気に入りの若い男性スタッフに本命？チョコレートを渡されていて、今年も嬉しそうに渡されていました。男性スタッフも毎年楽しみにしているようです。（笑）

女性スタッフからもほんの少しですが、男性の利用者さん方に日頃の感謝をこめて渡させて頂きました。

普段車椅子の女性が、ラジオ体操をしたいたの要望でスタッフが見守りながら、立ち上がって一緒にラジオ体操を行ったりしています。また、利用者さん同士でのお話に花が咲いている場面をよく見かけます。同じ釜の飯を食べている仲なので、当たり前のようなのですが、すごく微笑ましい光景だなあと思つて見えていました。私はHさんと「桜が咲いたらお花見したいね」とお話ししています。何気ない会話も、幸せだな〜と感じますね。

鴉嶺の家（児童）

枯れ草の間に緑も鮮やかに萌え出る候、鴉嶺の家（児童）では、2月3日に節分の豆まきをしました。鬼が出てくる歌を歌ったり、午前と午後2回も鬼が来て子ども達と豆まきをしました。日頃いたずらしたり、悪いことをすると「鬼に電話しようかなー」とスタッフが言う、「やだやだー」と言っている子ども達が、本当に鬼が来ると泣き出してしまいう子もいれば、怖いので遠くから豆を投げている子、怖いけど頑張つて近くで投げている子、全然平気で笑つて投げている子とそれぞれの反応をしていました。鬼が出て行ってから「怖かったね」と言う、「怖くなかったよ」と言う子もいました。おやつでは、お豆を少し食べました。子ども達はあのお豆が好きな子が多いようでもっと食べたがる子もいました。

3月3日は、ひな祭りなので、子ども達にお雛様とお内裏様を作ってもらったり楽しいことをしたいなと考えています。皆さまも、寒暖差が激しいので体調には気を付けて下さいね！！



ぼけっと

公園の桜のつぼみが膨らんで、子ども達と開花を楽しみにする季節になりました。2月は、鬼の箱にボールを投げ入れたり、「豆を食べたり節分を楽しみました。バレンタインデーでは、それぞれケーキをデコレーションしながら、恋バナに花がさいっていました。

そして同日、「歳末たすけあい共同募金」の助成を頂く事ができ、ぼけっとに新しい掃除機、洗濯機、オーブンレンジが届きました。ピカピカの電化製品を見つけた子ども達は、驚いたり、笑顔になったり、歓声を上げたりしながら喜んでくれました。いつもならば、掃除や洗濯物たたみ等、中・高生を中心に取り組んでいます。この日ばかりは、小学生が頑張っていました。また、今までのレンジと違いオーブンがついたので、「クッキー作れる?」「ピザ作ろう!」

等々、子ども達やスタッフの夢も広がり、共同募金に善意を寄せて下さった皆様には、感謝の気持ちでいっぱいです。本当にありがとうございました。

また、中3の子ども達は受験を終え、本人や保護者の方から4月から高校生になる報告を受けました。大きくなったなあと思うのと同時に、後3年で、ぼけっとを卒業し、大人のサービスに移行する事を考えると、気が引き締まる思いです。もうすぐ年度末、子ども達が新しい学年に向けて頑張れるように、スタッフ一同頑張ります!!

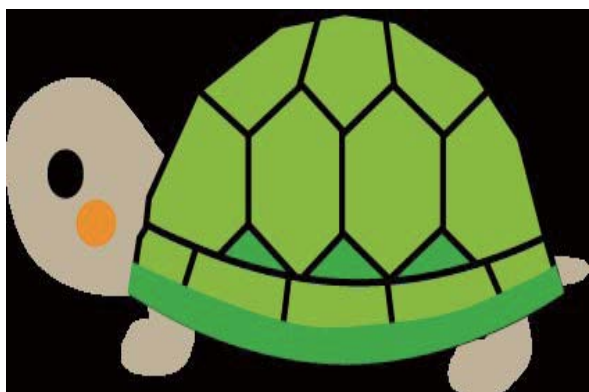


サポートセンタースピリッツ

先日、Aさんの同行援護（視覚障がい者の方の外出時のサポート）でカトレアの会（網膜色素変性症患者会）の総会に参加させていただきました。Aさんと私は午後から参加したのですが、会場に入るとカメの着ぐるみを着て、ピンクのもじやもじやのかつらをかぶった60歳〜70歳くらいと思われる一人の女性がおりました。胸元にはガムテープが張っており、そこには「かめ」と書いてあります。私はAさんから講演会と聞いていたので、正直戸惑いました。

私の戸惑いをよそに総会は進行され、その女性の正体がわかったのです。実はその女性は、「笑いヨガ」のインストラクターで、みなさんを元気にするためにそういう格好をしていたのです。なぜ亀の格好をしていたかという、母親が亀に助けられたというエピソードがあるよう

で、亀はその女性にとってラッキーな動物として好きになったそうです。「笑いヨガ」のことを皆さん知っていますでしょうか？私も今回初めて体験したのですが、元気がない人や脳を活性化したい人にはおすすめかもしれません。障がい者や高齢者の施設でよく取り入れられているとのことでした。ご興味がある人は、インターネットで調べてみては？



街かど福祉相談室ると

梅の開花や早咲きの桜の便りを耳にして、春の息吹を感じられるようになりました。人間も動物なので、暖かくなると行動を起こしたくなるものです。ただ、最近は花粉症のため、この時期は辛い季節と思う人も少なくないですよ。又、3月、4月は別れと出会い、新しい生活が始まる人も多く、るるともいつになく変化の多い月になりそうです。大きな変化のひとつとして、学校卒業後、成人の福祉サービスを利用される方や就職する方の生活があります。6歳から15歳、18歳と9年、もしくは12年学生生活を続けた後、それぞれ道の道へと進まれますが、主に学校が中心であった生活がガラッと変わるので、個人差はあるにしても慣れるまでが大変でしょう。なので、新たに成人の福祉サービスの利用を開始される方はモニタリングをこまめ

に行うようにしています。新しい生活が始まる方ではなくても、私達は生身の人間、状況は日々変化しています。ご本人やご家族が病気をしたり、事件や事故に巻き込まれたりや昨日とは全く違った生活になってしまいかもかもしれません。福祉サービスで解決できない課題もありますが、一緒に考えることはできますので、ご相談いただければと思います。



ハンドワーク（生活介護）

段々と寒さも緩んで、公園やハンドワークの庭につくしふきのとうがチラホラ、少しずつ春を感じる今日この頃。皆様いかがお過ごしでしょうか？

草木芽吹く春は花粉に頭を抱える季節でもあります。ハンドワーク生活介護では幸い花粉症の方がいらっしやらないので、晴れた日にお出かけをしています。最近では、東金ダムを1周と、その近所をお散歩！全部を合わせると約5キロのお散歩をしました。ちよつと風が強かったものの、日射しのもとでのお散歩だったからか、少し汗をかいてのゴールでした。

その他には、ご近所の神社にお参りに出かけたり、昭和の森公園や池のある公園に出かけ、水鳥を眺めながらウォーキングをしています。上り下りにおっかなびっくりしながら歩いたり、歌いながら歩いたり、そ

れぞれ楽しそうに過ごしていました。散歩中はちよつとしたおふざけもチラホラ。1人が小さな段差を両足でジャンプすると、それを真似しようとする人もチャレンジ！が、やっぱり怖かったようで、精一杯の片足ジャンプで、「できた〜！」と嬉しそうにしていました。これからは、健康づくりを兼ねたお出かけはもちろんですが、季節にちなんだお出かけが出来たらと思います。



ハンドワーク（就労継続支援B型）

2月3日は生活介護の利用者さんも誘って、みんなで豆まきをしました。職員が手作りのオニのお面を利用者さんがぶり、ノリノリでオニの真似をしていました。配られた豆を投げる人、食べる人とみんなそれぞれの楽しみ方で節分を過ごしました。

2月25日は野花の会さんの10周年記念式典にハンドワーク（就労）全員で参加してきました。歌や踊りなどのステージ発表を見て、自分たちの作った製品の販売を行っています。つばさ太鼓のステージを観ていたRさんは、和太鼓の音に反応して自分も叩きたくなったのか両手をグーにして一緒に太鼓を叩く身振りをして楽しんでいました。野花の会さんにお世話になっていたMさんにはたくさん知合いがいるため、「Mちゃんの作ったやつどこ？」と声を

かけてもらえる事が多々ありました。中でも最近Mさんに作ってもらっている、クラフトバンド製の動物マスコットグッズは好評でした。細くしたクラフトを球体に編み込み、ウサギやアザラシなどの動物の飾り付けをして完成！とても細かい作業なのでみんなが出来るわけではないのですが、Mさんは難なくこなしています。自分の作ったものを褒めてもらったり、目の前で売っていくのを見てみなさん満足そうにしていました。



ありさ（就労継続支援B型）

今年のありさも大忙しです。3月はイベントが2件と地域のお祭りが控えています。

1件目は毎年参加させて頂いている「さんむ市民活動フェスタ」です。このイベントは参加団体全体で主催していて、いつも前日に会場準備の手伝いに行っています。ありさメンバーも当日使うパネルや長机、イスを運んだり設置したりと、意欲的にお手伝いをします。地域の方と協力して参加できる素敵なイベントです。

2件目は東金青年の家で行われる「ふれあい体験フェスティバル」というもの。こちらのイベントは、初めて参加するのでどうなるか、不安半分期待半分といった感じですが。ありさらしいさを発揮して、より多くの方に知ってもらえたらと思っています。

そして、ふれあいフェスティ

バルと同じ日に催行される火正神社例大祭は、沿道でお神輿や屋形を担ぐ人たちに声援を送って、地域の方々と交流したいと思います。

もうすぐ4月。さくら祭りも近づいています。今年も期間中の土日に喫茶を営業予定です。忙しくてちよつと落ち着かないですが、メンバー一丸となって頑張ります!!



五根の家（グループホーム）

2月に入ると朝晩の冷え込みが一段と厳しくなり、体調を崩されて入院される方もおられました。先日無事に退院され、ご家族とスタッフもほっと胸を撫で下ろしたところです。

2月3日は節分でグループホーム内でも無病息災で一年、元気に過ごせますようにと豆まきを行いました。

お年寄りのAさんは、昨年転倒により入院され、車椅子生活となりましたが、退院後はとても元気になられ、はじめは人の手を借りて起き上がりや食事をされておりましたが、今では起き上がりも食事も自分で行えるようになりました。以前からの趣味である将棋も再開され、毎週ボランティアさんと将棋を指していますが、腕前も入院前と変わらず、Aさんの回復ぶりにスタッフも驚いています。

Aさんは、リビングで過ごし



ている時や居室で休まれている時も、一人になると『おーい、誰か！』としきりに人を呼ぶ事があります。内容は様々で、時に呼んだ理由を忘れてしまう事もあります。Aさんにとって、傍に人がいて欲しい、何かあったらすぐに誰かが来てくれる安心感のようなものを求めているのかなと思っています。これからも言葉の背景にある想いを少しでも汲み取れるように関わりを大切にしていきたいです。

五根の家（小規模多機能ホーム）

2月の始め頃、ボランティアの方々が来られ、お年寄りの皆さんの前で太巻き寿司を作ってくださいました。太巻き寿司は千葉の郷土料理で、古くから冠婚葬祭や、親戚・地域の集まりの時の御馳走として振る舞われる料理との事です。

ボランティアの方が準備をしていると、お年寄りの一人が「私やったことあるわよ！」と話され、ボランティアの方に教わりながら一緒に太巻き寿司作りをされました。絵柄のパーツを一つひとつ作り、いくつかのパーツを組み合わせながら巻き簾で巻き、断面を切ると綺麗なさくらんぼ模様が出来上がりました。他にも桜木やあやめ等の模様もあり、どれも美しく精巧な出来栄えの物でした。

巻き寿司には、様々な材料が使われており、中には赤いかんぴょうもありました。私達が一



般的に見る物は茶色のかんぴょうですが、赤いかんぴょうは『ツルムラサキ』という植物の実で、煮る事により赤くなるとの事でした。あるお年寄りは、ご家庭で赤いかんぴょうについての話題になったとの事でした。

今回の太巻き寿司作りを通じて、昔やっていた事を思い出して楽しく参加されたり、伝統の郷土料理について知る事が出来てお年寄りやスタッフそれぞれに有意義な時間を過ごす事が出来ました。ボランティアの方への感謝と、またの機会があったらと思います。

「こころん」

卒業・入学のシーズンです。子どもたちの進学準備に苦労するお母さん、お父さんのために地域からご寄付いただいた参考書類・制服・体操着が活躍しています。垣間見えるのが親の経済状態を把握し本来の希望と現実の板挟みになっている子どもたちの姿です。「子どもの貧困」とよく言われます。「剥奪指標」(子どもたちがなにを奪われているか)というものがあります。具体的には「毎月お小遣いを渡す」「家に子どもの年齢に合った本がある」「子どもが自宅で宿題をすることができる場所がある」「習い事に通わせる」「1年に1回程度家族旅行に行く」等のアンケートに答えてもらって指標とします。生活の中で何気なく行われていたことがその後の円滑な社会生活に必要であるいろいろな知識や経験になっていたのだと感じます。子ども

の問題はその世帯、家庭ごとに考えなければ、貧困の連鎖は防げないと日々感じています。

2月10日東金市生活困窮者自立支援セミナーでこころんの活動報告をさせていただきました。大勢の方がご参加下さりとても光栄でした！

最後に、フードドライブへのご協力ありがとうございました。こころんでは引き続き食料等のご寄付を受け付けております。ぜひご一報ください！



地域福祉情報・相談センターりんく

営業：午前10時～午後8時

場所：東金ショッピングセンター「サンピア」内1階

(ステージコート脇)

内容：福祉、介護、子育て、ボランティア・市民活動

に関する情報提供、相談

★福祉・介護・子育て等に関する情報の掲示・配布をご希望の方は、当法人までご連絡ください。

(5333630)



法人事務局

《NHK歳末たすけあい助成決定！(家電製品3台)》

千葉県共同募金会様から、「平成28年度(第66回)NHK歳末たすけあい」の配分として、子ども支援センターぽけっとに、洗濯機・掃除機・オーブンレンジを助成頂くことになりました。

10数年使用してきた電化製品の劣化が激しかったのでとてもありがたい助成でした。

大事に使っていきたいと思います。ありがとうございます。



企画・イベント情報

ヨガサロン

健康管理、仲間づくりにヨガを始めませんか？

旧道の岸本薬局の斜め向かいにある「ありさ」の2階で開催中。

開催日 4月5日(水)

4月19日(水)

※興味のある方はご連絡ください。

ありさ(50-0362)

ともに暮らすを考える集い

日時：3月20日(月)

10時30分～

会場：東金市ふれあいセンター

内容：基調講演

講師：大友愛美

参加対象：障がい児・者の

保護者及び関係者他

参加費：無料

主催・連絡先：

ちば地域生活支援舎

53-3630

穂垂るの会

介護している方々が集まって日々の苦労話等を気軽に本音で話し合う会です。

日時：4月13日(木)

会場：ふれあいセンター

2階 創作室

経費：200円(昼食代)

主催・連絡先：

穂垂るの会・井上

(090-7171-1701)

街CAFEさくら

「カフェシネマ」

日時：4月16日(日)

13時～16時

会場：東金市東金1060-6

(サンフラワー1階内)

参加費：100円(お茶代)

問い合わせ先：

社会福祉法人ゆりの木会内

認知症カフェ担当

平賀・笠原

(50-8111)

お知らせ

スタッフ募集

子どもや障がい者、お年寄り等、人に関わる活動に興味のある方、一緒に働きませんか？

日数・時間・曜日・内容(介護・保育・支援・食事づくり・清掃など)・年齢等ご相談に乗ります。

※興味のある方は、ぜひ当法人にご連絡ください。

(533630)

ボランティア募集

趣味や特技、仕事を通じて身につけたスキル、体力等、自分らしさを生かしたボランティア活動をやってみませんか？

ボランティア活動を通じて得られる効果は無限大です。

子どもや障がい者、お年寄り等、人に関わる活動に興味のある方は、ぜひ当法人にご連絡ください。

(533630)

編集後記

新年度に向け、どこの事業所もいつも以上に忙しそうですね。電車や車で出掛けた際にふと車窓を見るとポツポツと桜が咲いているのを見かけるようになりました。また新しい季節に変わるんだなあ実感しています。(W)

3月11日・12日の2日間、火正神社例大祭が開催されました。例年スタッフの参加と利用者の見学ですが、今回は、ぽけっと・鶉嶺の家の子ども達が、参加させてもらいました。本当にありがたいことです。(Jerry)



ちばしゃ通信 (Vol.29)

発行日：2017年3月15日
発行元：ちば地域生活支援舎
編集責任者：宮下・太齋
連絡先：0475-53-3630